



スーパー グローバル ハイスクール

佐高 SGH通信 2019

No. 27 (令和元年 11 月 15 日発行)

「世界津波の日」2019 高校生サミット in 北海道 参加報告

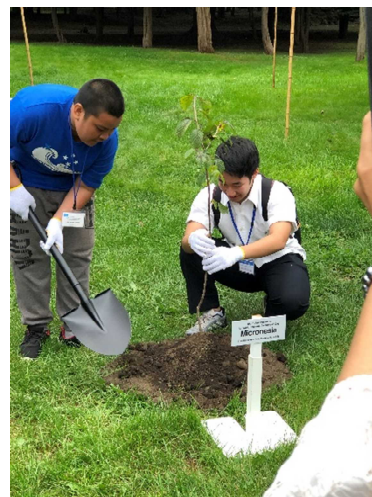
9月10日(火)と9月11日(水)の2日間、世界43ヶ国から500名を超える高校生が集まり、北海道立総合体育センター「北海きたえーる」(札幌市にて)「世界津波の日 2019 高校生サミット in 北海道」が盛大に開催されました。佐野高校から栃木県代表として、高2年2組の店網泰吾君と高2年4組の藤沼伸君の2名が参加し、初日のプレゼンテーション、2日目のグループディスカッションと、積極的に活動に参加しました。特に2日目は約40名からなる討論をまとめて全体会で発表を行なうなど、素晴らしいリーダーシップを発揮しました。

(メサミットのメイン会場と、二人の活躍の様子です)



「世界津波の日」とは: 津波と自然災害の脅威と対策について理解と関心を深めることを目的に、2015年の国連総会において日本が提唱し、142カ国が共同提案を行ない、毎年11月5日を「世界津波の日」に制定することを、全員一致で採択した。翌2016年から、「世界津波の日高校生サミット」が、世界各国50カ国以上の高校生の参加により、日本で開催されている。

(安倍総理のビデオメッセージと地元の高校生によるブラスバンドの演奏で、総会は始まりました)



(記念植樹と除幕式の様子です)



《高2-2 店網 秦吾》…「世界津波の日サミット2019に参加して」
 様々な国籍の生徒との英語によるディカッションでは、英語ディベートやプレゼンテーションとは全く違った難しさを感じ、自分の英語力にはまだまだ伸び代があることに気づいた、大役に積極的にチャレンジして、新しい自分の世界と可能性を大きく広げる貴重な体験ができた。

《高2-4 藤沼 伸》…「世界津波の日サミット2019に参加して」
 自然災害の多い国に住む一人として、今回のサミットに参加できて嬉しかった。初めての国際イベントの参加で英語によるコミュニケーションに苦労したが、国内外に多くの友達ができた。一緒に参加した店網君と引率の片柳先生に感謝しつつ、「若き防災大使」としての自覚を持って、生活していこうと思う。